

2. 施工方法

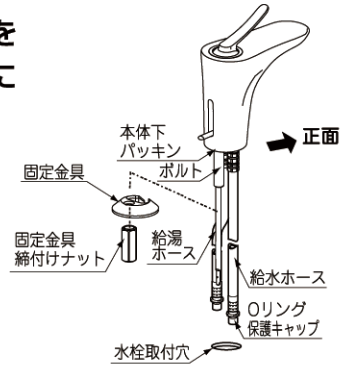
以下の手順通り、正しく取り付けてください。

1 水栓本体の取付

1. 本体から固定金具、固定金具締付ナットを外して、給水・給湯ホースを本体取付穴に挿入する。

注意

- Oリング保護キャップはソケットと接続するまで外さないでください。
 - 給水ホース・給湯ホースが折れないようにご注意ください。
- ※漏水する恐れがあります。

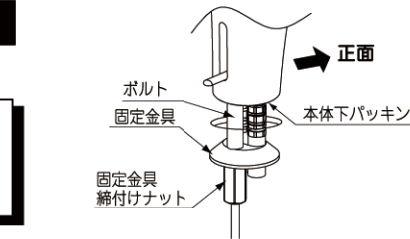


2. 固定金具、固定金具締付ナットをボルトに通し、水栓が水栓取付穴の中心に来るように設置する。

注意

本体下パッキンがずれないように注意してください。

※漏水する恐れがあります。

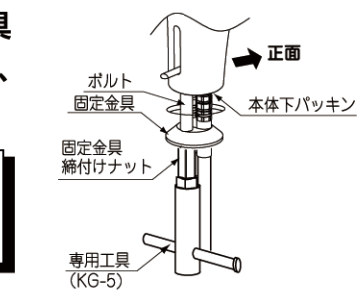


3. 吐水口を正規の位置に向けた後、専用工具 KG-5にて座金固定ナットを締め付けて、カウンターまたは陶器に固定する。

注意

別売りの専用工具 (KG-5) を使用してしっかりと締め付けてください。

※漏水する恐れがあります。



ポイント

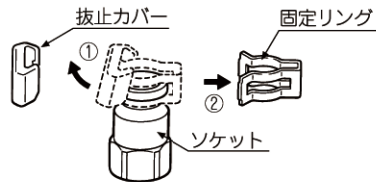
固定金具のゴム部が水栓取付穴のまわりに密着するよう固定する。

確認

締付後、本体に浮き、グラつきがないこと。

2 給水・給湯ホースの接続

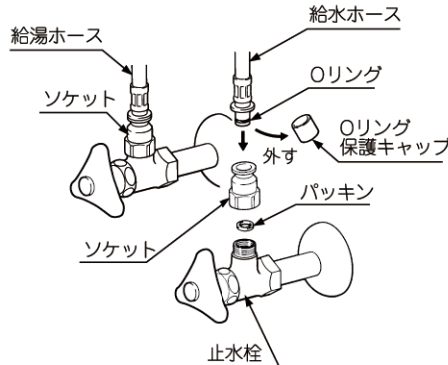
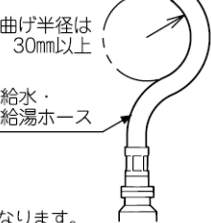
1. ソケットの抜止カバーと固定リングを外す。



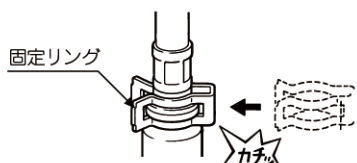
2. ソケットを止水栓に固定し、ソケットに給水・給湯ホースを差し込む。

注意

- ソケットの中にパッキンが入っていることを確認してください。
 - Oリングを傷つけない、ゴミがみしないようにしてください。
 - 給水・給湯ホースを差し込むときは、無理に曲げないようにしてください。
- ※注意しないと、漏水の原因になります。



3. 固定リング、抜止カバーを、確実にはめ込む。



注意

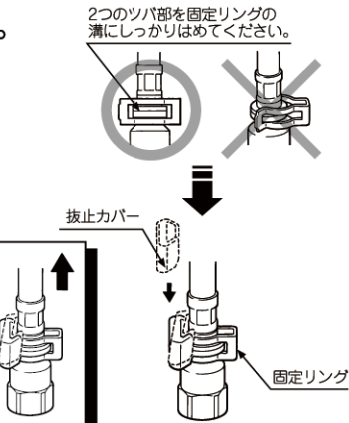
確実にはめ込んでください。

※しっかりとはめ込んでいないと、抜止カバーが外れて、漏水や固定リングでケガをする恐れがあります。

確認

確実にはめ込んでいること。

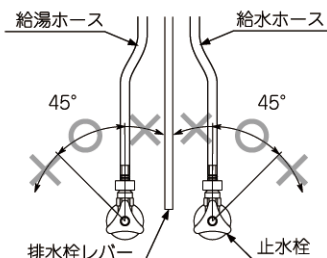
※給水・給湯ホースを矢印の方向に引っ張り、確認する。



〔給水・給湯の取出位置によって止水栓を垂直に取付けできない場合〕

※止水栓の向きを図のように外側に約45°以内で傾けて、給水・給湯ホースが無理に曲がらないように調節してください。

内側に傾けると、排水栓レバーがホースと接触し重くなる場合がありますのでご注意ください (ポップアップ式のみ)。

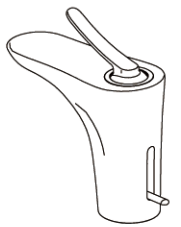


3

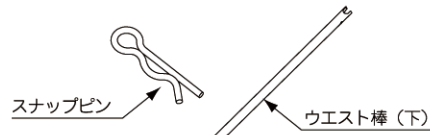
※LF-YB340SY、LF-YB340SYNの場合 引き棒と排水金具の接続

以下の手順通り、正しく取り付けてください

※排水金具の施工方法は、排水金具に同梱の施工説明書をご覧ください。

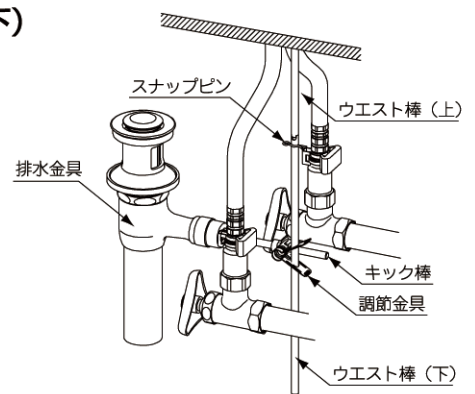


1. 水栓金具に同梱の、ウエスト棒 (下) とスナップピンを用意する。



注意

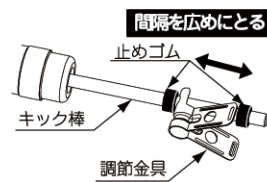
スナップピンを紛失しないください。



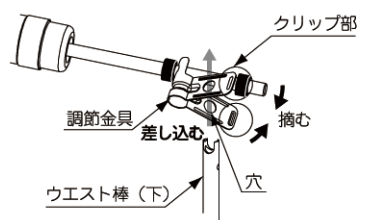
2. キック棒に止めゴムと調節金具を取付ける。

ポイント

接続しやすくするため、止めゴムの間隔は広めにとっておく。



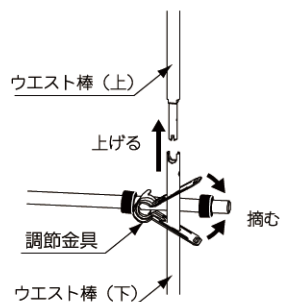
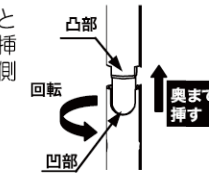
3. 調節金具のクリップ部を摘みながら、ウエスト棒 (下) を調節金具の穴に差し込む。



4. 調節金具のクリップ部を摘みながら、ウエスト棒 (下) を上方に上げ、水栓金具側ウエスト棒 (上) と接続する。

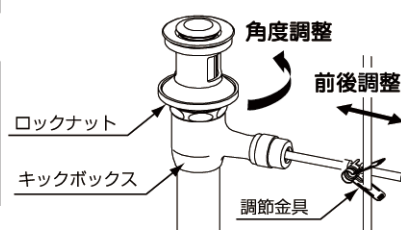
ポイント

ウエスト棒 (下) を回転し凸部と凹部を合わせ、奥までしっかり押し込む。上方に上げ、水栓金具側ウエスト棒 (上) と接続する。



ポイント

ウエスト棒 (上) とウエスト棒 (下) の位置が合わないときは、排水金具のロックナットを緩めて、キックボックスの角度を調整し、再びロックナットを締める。または調節金具を前後に移動させる。



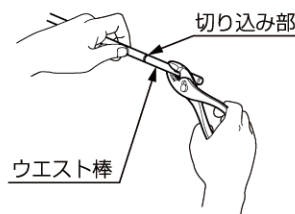
注意

給水ホースと調節金具が干渉しないこと。

※破損して漏水する恐れがあります。

ポイント

ウエスト棒が長すぎて排水管等に干渉する場合は、下端にある切り込みより、プライヤー等を用いて切除してください。



注意

切除した端面はヤスリで処理してください。

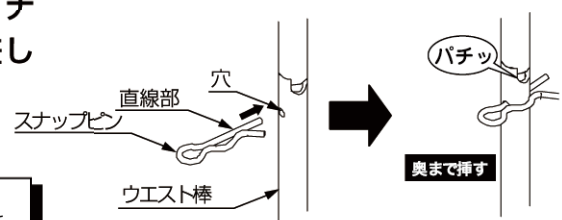
その後、止めゴムで保護してください。



5. ウエスト棒 (下) の穴に、スナップピンの直線部を奥まで差し込む。

確認

スナップピンが奥まで差し込まれていること。

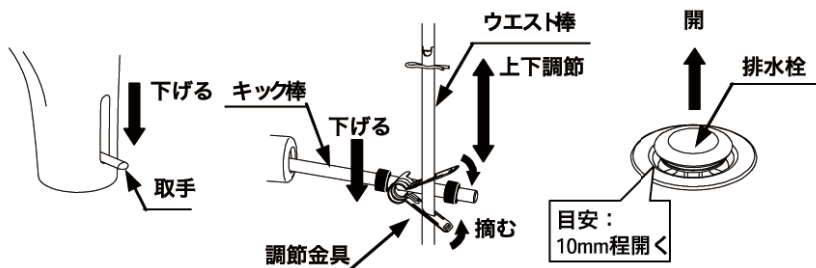


3. 施工後の調節

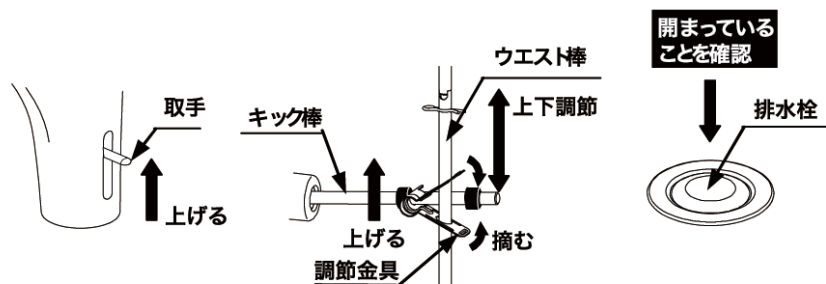
以下の手順通り、正しく調節してください

1 排水金具の動作確認・調節

1. 取手が最下部で、排水栓が10mm程度開くように、調節金具のクリップ部を摘みながら、ウエスト棒の上下位置を調節する。



2. 取手を上げて、排水栓が完全に閉まることを確認する。閉まらない場合は「1.」の調整を再度行う。



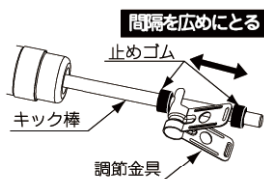
注意

必ず、排水栓が確実に閉まっていることを確認してください。

3. 取手を上げ下げし、排水金具の開閉がスムーズにできることを確認する。操作が重い場合は、調節金具の位置を調節し、ウエスト棒が斜めにならないように調節する。

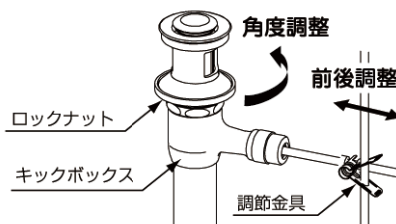
ポイント

接続しやすくするため、止めゴムの間隔は広めにとっておく。

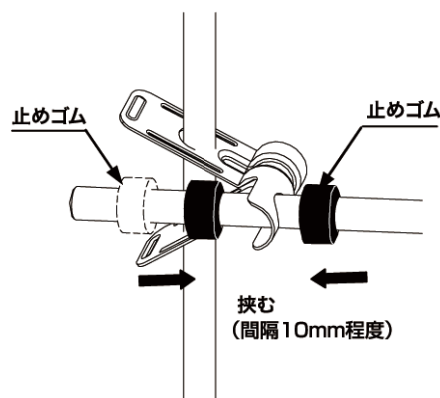


ポイント

ウエスト棒（上）とウエスト棒（下）の位置が合わないときは、排水金具のロックナットを緩めて、キックボックスの角度を調整し、再びロックナットを締める。または調節金具を前後に移動させる。



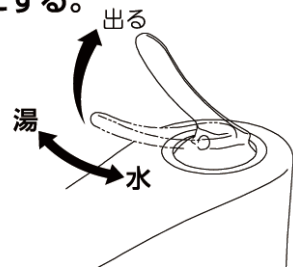
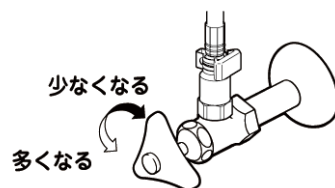
4. 排水金具の開閉が円滑に行えることを確認したら、止めゴムで調節金具が大きく動かないように挟む。（止めゴムの間隔は10mm程度）



2

通水確認

1. 水側・湯側の止水栓を全開にする。 2. レバーハンドルを水側・湯側で全開にする。



3

流量の調節

レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側の流量が約6L/minを超える場合は、止水栓で流量を調節をしてください。湯水の流量を調節後、レバーハンドルを中央の位置で全開した時、流量が多い場合は、湯水の流量が同じになるように、止水栓を徐々に絞って調節してください。

注意

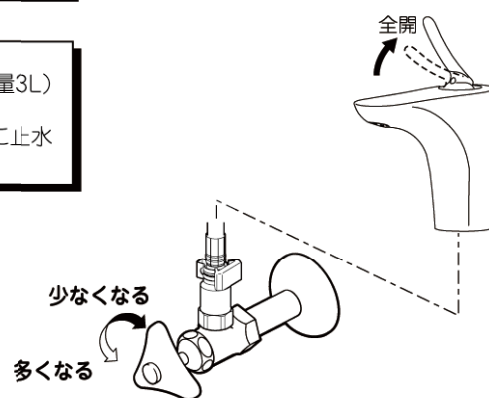
必ず、流量調節をしてください。
※水はねやオーバーフローにより家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。

確認

最終点検時は配管接続部の水漏れ点検を十分に行ってください。

ポイント

- 6L/minの目安は、市販の洗面器（容量3L）をいっぱいにするのに約30秒。
- 湯と水の流量が同じくらいになるように止水栓で調節する。



4

泡沫口の掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、泡沫口の泡沫ユニットの掃除を、以下の要領で行ってください。

1. 泡沫口の紛失を防ぐため、排水栓を閉じる。または、排水口を布等でおおう。
2. 工具で泡沫口を回して泡沫ユニットを取り外し、水で掃除する。
3. 泡沫口部を付属の泡沫口取外し工具でしっかり右に回して取り付ける。



注意

泡沫口のOリングを傷つけないように注意してください。
※漏水の原因になります。

4. 引渡前の確認

お客さまに引き渡すまえに以下のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か？	—	「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	泡沫口ユニットのゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
	止水栓は十分開いているか？	—	止水栓を十分開く。
水が止まらない	ゴミかみはないか？	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか？	③	カートリッジ固定ナットを締める。 ※締めすぎるとレバーハンドルが重くなる場合がありますので注意してください。
ハンドルが右側に回らない	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドルはレバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。（施工完了図参照）
希望の温度が得られない	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドルはレバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。（施工完了図参照）
	圧力は十分か？	—	「使用条件」の項参照。
	泡沫口ユニットのゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
	流量調節はよいか？	—	「流量の調節」の項参照。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	⑤	固定金具締付ナットをしっかりと締める。
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	⑥	ハンドル止めビスをしっかりと締める。

※点検箇所は下図を参照してください。

